私、ユリヤナは、レバノン――ベイルート、そしてそこにいたすべての信者たちを心から称賛しています。それは2025年12月2日（火）のことでした。私は教皇レオ**14世**のミサを見ていました。

ローマとは違いましたが、ミサにはローマと同じくらい多くの人々が集まっていました。聖体拝領が行われたとき、私は涙を流さずにはいられませんでした。30万人以上の巡礼者が口で聖体を拝領しているのを見て、私は心の底から泣きました。私は長年にわたり、口での聖体拝領、つまり**正しい拝領**が行われるよう祈り続けてきました。しかし、今回のレバノンでは、手での聖体拝領は一つもありませんでした。聖父様はそれをすべてご覧になっていました。ドイツの多くの人々もそれを見ていたことを願っています。喜びのあまり泣いていると、救い主がこうおっしゃるのを聞きました：

「泣いているのはあなただけではない、私も泣いているのだ」。

私の心には計り知れない喜びが満ちていたため、本当に心の底から泣いてしまいました。これは私にとって確証でもありました。なぜなら、救い主は度々こうおっしゃっていたからです：「手での聖体拝領は、私の目には忌まわしいものである」。

私たちが何度もミサに参加していたマリア・リンデンでは、多くの人々が口での聖体拝領を行っています。

しかし、それとは対照的に、私がよく通っていたフォルバッハの教会では、司祭が公然と「私も口での聖体拝領は好きではない」と説教していました。

その言葉に、私の心は張り裂けそうになりました。ある女性が教会で私にこう言いました。「口での聖体拝領は、それを受け入れるのにとても勇気が要るんです」と。また、他の人たちに何と言われるか不安だったからでもあります。

私はいつも、「人々の言うことに耳を傾けてはいけない。自分の心の声に耳を傾けなければならない」と言っていました。

しかし、もし人々が生ぬるく、偽りの敬虔さに従い、ただ他人がやっていることだけをしているのであれば、彼らは手での聖体拝領を行うことになり、救い主は御心である恵みと愛を彼らに授けることができません。

全能の聖三位一体の神、✝
父、子、聖霊に、このことを示してくださり、私が口による聖体拝領を通じてそれを体験し、私の祈りが聞き届けられたことを感謝します。

www.gnadenvolle-gebete.de

2025 年12月5日

ドイツ・フォルバッハ、エルバースブロン、

ユリヤナ、ベルンハルト